

『パーキンソン病について』

手足が震える、筋肉がこわばる感じがする、転びやすくなった・・・など“歳のせい”と思っているその症状、もしかしたら「パーキンソン病」かもしれません。

パーキンソン病は、脳が出す運動の指令がうまく伝わらず、体の動きが不自由になる病気です。50～60歳代で発症することが多く、ゆっくりと進行する原因不明の神経変性疾患です。超高齢社会になるにあたり、今後ますます患者数が増える傾向にあります。パーキンソン病について、当院 神経内科 主任教授 相澤 仁志 医師がわかりやすく解説いたします。皆さまのご参加をお待ちしています。

■日 時：平成28年5月30日（月）

開場 17:00

開演 17:30～

閉演 18:30（予定）

■会 場：東京医科大学病院

本館6階 臨床講堂

（最寄駅：丸ノ内線 西新宿駅）

■入 場 料：無 料

■申し込み：事前の申し込みは不要。当日は会場に直接お越しください。

■お問合せ：東京医科大学病院 総務課 ☎ 03-3342-6111(代)

※尚、座席数に限りがございます（320席）。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。

共催：東京医科大学

東京医科大学病院 生涯教育センター

東京医科大学病院 総合相談・支援センター

公益財団法人 東京医科大学がん研究事業団

東京医専



東京医科大学病院
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

100th
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY
since 1916

